



美しいの龍



～神様と対話する

自閉症の息子との日々～

お母さんの心が自由に楽になるコツ

namichan

私は自閉症とよばれる症状をもった子を授かり、育てていくなかで、悩み、苦しみ、相手と自分を責め続けてきました。そしてガンを経験しました。

けれどいま私は、本当に心からの幸せを得ることができています。

自分自身がなぜ悩んでいたのか？

私は「こうでなければならない」という高い理想に苦しんでいたのです。私が自分自身の心を深く見つめ、気づきを得て、とらわれから心がどんどん自由になっていくなかで、私の子供は、私を導いてくれるかけがえのない先生へと変わっていったのです。

この私が体験したことを、いま自閉症と呼ばれる症状をもった子と、どうやってつきあっていけばよいのかと迷うお母さんたちに、伝えることで、何か役にたてることがあるのではないかと考えるようになりました。

そうして思いついたのが、小冊子に自分の体験をまとめ、それを皆さんにお伝えすることでした。

そして私は『お母さんを元気にする会』をスタートさせることにしました。

この小冊子を手にとっただいた方で、私の考えにご賛同いただける方は、同じく苦しんで悩んでいるお母さん方へ情報をお伝えいただけましたら大変うれしく思います。

心のありようが変われば、

現実のとらえ方は本当に変わるのです！

まずは、子育てに入る前の私がどんな性格や価値観の持ち主であるのかをお伝えします。

私は昭和36年生まれ。3人姉妹の次女。女ばかりの真ん中は愛情不足で、一般的に変わり者とよく言われますが、私もその一人でした。

保育所時代の頃のお話し。親戚の結婚式があり、私たち姉妹は着物を着せてもらい三人並んでいました。見知らずのおばさんが姉に、かわいいね～と声をかけ、ちらりと私を見て隣の妹に、かわいいね～と言ったのです。何も意図はなかったかもしれないけれど大変傷ついたことをよく覚えています。確かに姉はうなじの綺麗な着物の似合う美人であり、妹は童顔でかわいいタイプ。

” どうせ私はかわいくない！” のひねくれ人生が始まりました。

姉と妹は美味しいお菓子を選ぶが私は質より量を選びました。食事もおっぱいほおぼり、よく噛まずに飲み込みお腹いっぱいになるまで食事をし、人の倍は食べていました。お腹を満たすことで親の愛情に置き換えていたのだと思います。

とにかく私はせっかちで、人の話を途中までしか聞かず、あ～分かったと早とちりをよくしました。テストの問題をよく読まず凡ミスが多く、行動自体も親から「本当に落ち着きが無い！」と

よく怒られました。

落ち着きの無さは「親から愛されていないのでは」という不安からと思いましたが、もともとはADHDだったのではと思います。何故叱られるのか分からない時もよくあったりして、どうしたらいいか不安は膨らむばかりでした。

成長と共に私の性格がどんどんダークの方向へ向かっていきます。

私は体育が得意で運動会では毎年リレー選手に選ばれました。喜ぶ親の顔を見ると愛されていると安心できたことから、よく安請け合いをしてしまい、逆に親に迷惑をかけてしまいました。

私は益々怒られる事は愛されない事と思い込んでしまうことで、ミスは認めることができなくなり、周りのせいにし、謝れないし、嘘もつきました。いろんな面で自分より力のある人に対し嫉妬心を持ち、足を引っ張りたくなり虚栄心の塊となっていきました。

積極的に場を仕切るのですが、振り向けば誰もいなかったのです。当たり前前の現象ではありますが、かなりこたえました。寂しく思いました。もう傷つきたく無いので、どんどん自分の周りに柵を作り始めます。

親の愛を獲得したく21歳で見合いし、養子をもらったので

すが、1年半で離婚。親の期待を裏切ってしまう結果となってしまいました。

離婚後は“人生は誰のものか”と考えるようになり、結局27歳で夫と恋愛結婚し家を出ました。そして出産。長女に続き、自閉症の長男が誕生することになります。

28歳で長女誕生。しかし、我が子を目の前にしても可愛いと思ったことはありませんでした。人が幼子を見て「可愛い！」という心理が理解できませんでした。可愛いと思えない自分は何なのか？人として大丈夫なのか？こんな心の状態で子育てが始まってしまいました。

長女が、わ～んと泣いたらおむつを確認し、おっぱいをあげる。眠ったら自分も眠る。この繰り返しの中で、何をやっても泣き止まない時があり、あまりにもどうにもならず頭に血が上り、長女の頭を平手打ちし、いい加減にして！と叫んだことがあります。

確かに睡眠不足と疲労が重なったこともありますが、自分の中ではかなりの傷になっています。

私の子育ては、ただ死なないように、人として最低限度の事をするだけで精一杯でした。食べさせ、清潔な衣類を着せ、眠らせ・・・淡々と続けているだけで、そこに愛情は存在せず、どっぷりとストレスの中に浸かっているという感じでした。

ある日つかまり立ちができるようになった長女がすっくと立ち、私を見て、頭を少し傾けながら、にっこりと笑いかけたのです。私はドキッとしました。こんな最低限な事しかしてない母親になんでそんな無垢な笑顔を見せてくれるのか！恥ずかしく自分を

責める自分がいました。今思い出したとしても胸が苦しくなり泣けてきます。

長女出産より1歳10か月後に長男が誕生しました。長女との育児で、かなりストレスがたまり育児ノイローゼ寸前でした。幼児虐待をしてしまうお母さんの心理が私にはよく理解できました。

長男の発達の遅れは、パラシュート反応が通常より1か月程遅くなることから始まりました。首のすわりは遅れることなく、歩くのも1歳3か月ごろでした。

通常発達速度からすると、私の感覚で誕生日より1年程遅れながらも着実に発達していく姿を確認していました。

私が不安に思っているのは子育てに影響が出てしまうから気にしてはいけないと自分に言い聞かせていました。男の子はこんなものなんだと。

1歳6か月で川崎病になりましたが、22日間の入院で心臓に後遺症も無く軽く済みました。病室に飾ってあるお花を指さし、綺麗～と言っている姿に癒されました。

2歳半より、動きが活発で大変になっていきます。

3歳児検診の時、絵本に反応しない状態を見た保健婦さんから、お母さん、気になりますか？と聞かれ、気になりません！と伝えました。いろんな意味で現実を今は知りたくないという心理が働いたのだと思います。

保健婦さんは、ならいいですよと言われものですから、ならいいのなら大したことはないなと思いこむことにしました。

だって遅れながらもちゃんと発達してるんだもの。うちの子は普通なのだ！

言葉がいつから出たかが長女の育児と重なって覚えがないのですが、日常生活では困る事はありませんでした。言葉は単語のみで、「～が」「～は」などは、最初はついていませんでしたが・・・。

年中より市立の幼稚園に入園。入園式で走りまわる我が子が信じられなく、主人もビデオを撮るのをやめてしまいました。

夏休み前に幼稚園から、発達相談に行くことを勧められました。幼稚園側としても基準となるものがほしいからだろうし、まあいってやるか！と気楽に市の相談窓口に出かけました。

相談窓口からは、通常の発達より“色”や“左右”などの認識が一部遅れているので、発達を促すことができる市の施設へ1週間に一度通う事を勧められました。即通い始め発達が進んでいく事が感じられたのですが、何の影響で遅れているのか施設では誰も教えてくれませんでした。指導員や幼稚園側に尋ねてもうまくはぐらかされ教えてもらえません。障害なのか、発達の遅れなのか、不安でたまらなくなりました。

施設に脳神経科の先生が巡回された時に、やっと長男は自閉症であると伝えられました。

“自閉症”とは何ぞや???

自閉症の関連本をガンガン読みあさりしました。

先天性であり、育て方の問題ではないと知ることはでき、私のせいではないことにホッとほしたものの、どう対応して良いものか分かりません。主人に話すと、何でもいいから医者調べても

らえ！と言われました。

私としては、調べてみても先天性のものであり、医療的に何かできるわけではないと思い、このまま見守る事でよいのではと思いましたが、主人は納得しませんでした。何か後天的な要素ではないのかと思いたかったのではと思います。

脳神経科で脳のCTを撮りましたが5ミリ以上の傷はなく、特に異常はないが、若干頭が大きく、脳細胞が一時期増え整理整頓される時に上手くいかなかったのではないかという事でした。

投薬をするなら“Lドーパ”を勧めるとの事でもらって3日飲ませましたが、体がかかなり怠くなるようで、だらんとして、しんどそうに寝ている姿をみたら、もういい！このままでいく！と決め薬は捨て二度と脳神経科へは行きませんでした。

何故私に自閉症の子供が生まれたのか？”と当然一度は思ったのですが、結局そんなことはどうでもいいので、とにかく長男に生きる力をつけ世に送り出さなければ、親としては死んでも死にきれない！と思いました。

また、私は自閉症の子供でも育てあげる事ができる！育ててみせる！と、まるでもらった課題を、プライドをかけて達成してみせる！というスポ根精神で育児に取り組んでいる自分がいました。学生時代に経験したバレーボールの勝つ法則が影響したのかもしれない。勝つ為には当然やることはやらないと結果はついてこないし、ちゃんとした母親であるという評価がほしかったのです。子供の将来よりも、自分の評価の方が大事だったと思います。

結局、我が子が自閉症という障害児であるという事を受け止めるところを飛ばして、育児に集中することで現実から逃げることを選択したのですね。認めたくなかったのです。

障害児のいる親とみられる現実。

同情の目。

障害児を授かるという事は清算しなくてはいけない因果が人より大きく、自分の魂が汚れているからだと思っていました。

自分の持ったダークな性格と汚れた魂。納得のいく理屈。どうせ私は可愛くないし魂は最低。自分のことなど好きになれるはずもありません。

そんな人間は誰も愛せないですよ。

自分の子どもも例外無く愛せない。

私の周りのお母さんたちは我が子へ惜しみなく愛情を注いでいるし、自分の子は可愛いのが当たり前。我が子を愛せないのはやはりどこかオカシイのだ。母親として、人として最低だ。

負のスパイラルへようこそ！

我が子はどう見ても、躰のできていない子供としか見えません。うまくコントロールをしたいが、いう事をきかない我が子。

私のプライドはズタズタでストレスはたまる一方でした。

長男の頭の中を開けてみてみたいとも思ったし、何もいらないので長男と二人だけの世界で暮らしたいと思いました。

ただ、彼は生まれながらに人を疑うことを知らず、陥れたり、恨んだりすることのない、素直で暗い部分が全くない心の持ち主でありました。こんな人間がいることが信じられませんでした。現実には目の前にいたのでした。

彼のお陰で家族は素直に“ありがとう”や“ごめんなさい”の言える家族になりました。また彼には小さな幸せをたくさんもらいました。

箸の持ち方が悪く主人が一年かけて直しました。焼いた太刀魚を見事に骨だけ残し食べ終えた時は家族皆思わず拍手して喜び合いました。

こんな清らかな子が何故私に生まれてきてくれたという意味を、その頃の私は答えをもらおうともしませんでした。

そんな子育ての中での私のストレス発散方法といえば、スポーツをする事でした。長男6か月の頃、夫が見かねてか、スイミングに行くことをすすめてくれました。久しぶりに泳ぎ着替えている時、頭から白い煙のようなものが出て行ったのが見えました。おお、ストレスが出ていったんだ！と不思議な体験をしました。

また、バレーボールの練習に週一回参加し、試合に出るようになりました。自分らしい表現が安心してでき、自分が存在する意味を認めてもらえる唯一の場所であると思えました。育児を忘れ練習の帰りにはチームメイトとお茶を飲みつつバレー談義に花を咲かせてストレスを発散していました。そのうち全国大会にも参加するようになりました。

主人は外に出ることは大切だからどんどん出ていいと言ってくれ応援してくれました。これがあったからこそ心のバランスが取れたのだと思います。

入園前から、近所の子供とよく遊びましたが、一度母親から怒鳴り込まれた事がありました。うちの子が蹴られたと泣いている！というのです。

怒鳴りこんできたお母さんは、昼過ぎまで寝ている方で、こんなに子供の事を見ていない親に謝るなんて！と心の中で思いながらも、菓子折りを手に主人とお詫びに伺いました。菓子折りは突っ返され、二度と遊ばせないで！と言われました。

お詫びから家に戻り、夫婦二人して大きなため息をフーと吐いてから、ちゃぶ台に座り身動き一つせず、お互い一言も言葉を交わすことなく、気が付いたら1時間が過ぎていました。

長男に蹴った理由を聞いても答えがなく長男には“結局暴力をふるった側が悪くなる”ことを伝えました。しかし長男は幼稚園でも手をだしたり蹴ったりしていたようです。

原因は相手がからかってきて、言葉では言い返せないから、つい手足が出てしまうようなのです。

幼稚園の参観日にまさにその場面を見る事になりました。ちよっかいを出されるとみるみる長男の顔が怒りに満ちてきて。ただ、周りの子供たちが、両方を抑えて喧嘩にならないように止めてくれているのでした。

集団で生活をするこの意味がここにあると思いました。集団の中にいればいつか自閉症が治ると本当に思っていました。

長男は多くのお友達と先生方に見守られながら大きく成長していきました。遠足でバスに乗った時の長男の絵が、市の展覧会に出品されたりもし、先生方には大変よくして頂きました。

後々分かる事なのですが、長男は幼稚園時代までは本人は相手の言う事の理解ができず、もちろん親の言うことも。ただ馬鹿にされることは伝わってわかるようで言葉で反論する力がなく手足が出るのでした。日常生活には全く困っていなかったのも、まさか、言葉が分からないとは思いませんでした。

実家に姉妹家族みんなで食事をする機会があり、同じ年頃の甥と長男が遊んでおもちゃの取り合いをしました。甥に返すように伝え、最後に分かった？と聞くと、分かったと反ってくるので、当然分かっていると私は思ったにですが、そのままおもちゃを返さず遊び始めるのでした。再度言いかけ、分かった？と言えば、分かったと反ってくる。今度はおもちゃを返すと思ったら同じことを繰り返す。私のプライドと姉妹や親の手前、ビシッと叱らない訳にはいきませんでした。

長男に平手打ちをしました。

長男が、びっくりした表情の後にフツと笑ったのです。

私はぞっとしました。人はあまりに怖いと笑うと言いますが、これがそういうことかと思えました。長男には本当に申し訳ないことをしました。一生笑った顔を忘れることはありません。

長男・長女共に3歳からスイミングスクールに通わせました。長男がスクールに入る時はまだ障害が分かっていない時でした。水は怖がらず順調でしたが、顔を見て話さないと話しかけても全く気づけないので、スイミングのコーチとしては手のかかる厄介な子で、馬鹿にされている感じがしたのかもしれませんが。

女性のコーチが、私が観覧席から見ているのが分かって、長男を完全に無視して教える事をせず、話を聞かない長男が悪いと言わんばかりの態度を示したのでした。情けなくて泣けました。

障害が分かった後でも障害については伝える事ができませんでした。そのコーチはオーナーの奥さんだったので、やめてほしいと言われるのか怖かったのです。

男性のコーチはちゃんと長男に声掛けをしてくれ、上手く導いてもらい級もどんどん上がり、大変美しいフォームで泳ぐことができるようになり本人も自信をもつことができたようです。

人に絶望させられ、また希望ももらう。人生は出会いの運の強い者勝ちなのか・・・。

長男は、小学校の入学時検診では何事もなく合格することができました。

バレーボールの友人の中に、保母さんや現役の小学校教員の人
がいました。長男の小学校入学はどうしたらいいか相談したと
ころ、“知らん顔して入学させたらいいよ。特殊学級に入ると二
度と通常学級には戻れない”とアドバイスをもらい、そうするこ
とにしました。

市内で一番のマンモス小学校でした。

入学式は無事終わり、教室でみんな席に座っていましたが、一
人椅子の後ろにかくれている長男の姿が見えました。

担任より連絡ノートが来るようになり夏休み前に校長に呼び出
しを受けました。やはり特殊学級への勧めでした。締め切り
は3日後と聞き腹が立ちました。

たった3日で今後の人生が変わるかもしれない大切な判断を
しろってか？

親の印がないと特殊学級には移れません。

特殊学級の見学をさせてもらい特殊学級の担任とも話をさせて
もらいました。すると

“息子さんには特殊学級で教えることはありません。この学級の
目標とする力が既に備わっているのですから”と言われてしま
いました。

特殊学級という名札はつけても教室は用意してくれないんだ。

特殊学級への移動は断りました。

1年の学級担任が、特殊学級に力を入れている、同じ市内の特殊学級主任を紹介してくれました。その主任のいる小学校へ相談をしに長男と出かけました。

校舎内の“気”はマンモス校とは全く違う事にびっくりしました。表現するのが難しいのですが、“優しい気”というのが近い表現だと思います。案内してくれた先生に生徒さんが話かけてきてその時の雰囲気素晴らしいのです。信頼と安心でした。

面接中に長男は外で遊ぶ事になり一人で出かけていったので心配しましたが、

「大きいお兄さんが鉄棒で遊んでくれて、逆上がりができたら、みんな拍手してくれた！」と報告してくれたのです。障害児には健常児を覚醒する力があると聞いたことがあり、このことなんだと思いました。

この小学校は特殊学級の先生の数が多いことで校内のどこにいても、先生の目が行き届き、尚且つ主任のお陰で親学級より特殊の先生の力が強いと感じました。

この学校区に即転居しました。長女も引っ越すことを喜んでく

れ助かりました。

転居後、長男は週一回学校内の教室で、親と一緒に追級を受けることになりました。私は主任先生には本音で話しができません学校に子供を人質に出しているからという遠慮はここにはありませんでした。一時期特殊学級へ編入を考える事もありましたが、普通学級に在籍している事を手放すことが私にはできませんでした。子供の将来より、自分のプライド選んだのだと思います。

私たち親子は有意義な情報を得て良い方向へ運よく向かうことができましたが、同じ市内の中で、親たちは同じように税金を払い、平等に教育を受ける権利が子供たちにはありますが、情報を受け取れとれない親たちの多くが、もしかすると苦しんでいるのではないか？教育の平等とは？とても疑問に思いました。

長男の成長は目まぐるしいものがありました。友達も家へ遊びにきてくれたり行ったりと交流もふえました。宿題にしっかり付き合いましたが、感情的に怒ってしまってしまうことが毎日と言っていいほどあり、途中で父親と代わるのですが、結局父親も怒ってしまうのでした。

夕食にビールを飲んでイビキをかいて寝ている主人を見ながら、こっちは食事の後片付けがこれからで、疲れてムカついて、あなたはいいわね！とあたってしまいました。主人が休みの日に“食器洗い機を買いに行こう”と主人が言ってくれました。

私の子供へ愛情を伝えられない分は主人が愛情を注いでくれ本

当にかわいがってくれました。

小学校時代、自転車の絵を描いた事があります。通常自転車は真横から見た絵がほとんどかと思うのですが、長男は真上から見た絵でした。バスケットをしている絵はボールが紙面の半分をしめ、ボールの小さなプツプツしたところを細く描いていました。

社会常識にとらわれない感性。彼らしい絵でした。この子には何かスピチュアルな力があると感じていました。よく私の肩をすすんでもんでくれましたが癒されました。

長男は自閉症とはいっても、症状はLD児、学習障害が半分含まれているのかなと思っています。

通常の人、耳に入る音は聞きたいものを脳が上手く聞き分けているようですが、長男は全て入ってくる為、名前を呼んでも気がつかないようです。必ず目を見て話しかける必要があります。映画館は耳栓をしないと見ていただけません。幼稚園時代、長男が入浴中に胸を洗ってと伝えると、胸ってどこ？と言われ、なるほどと思いました。

何気に聞こえてくる情報を人は自然に蓄積しているものだが、長男は覚えるという意志をもって気かないと記憶に蓄積されないと気づきました。体の部位を伝えながら洗うようにしました。

中学進学を考える時が来ました。

その頃、中学は1組40名以上で追級という仕組みはなく、長男は中学へ行っても椅子に座ってくるだけで何も覚えず帰ってくるだけになるという事が、同じ障害を持つ子供の父兄から聞かされました。それでは高校進学も期待できず、ましてや生きる力はありません。国のシステムそのものに、もはや期待ができないと悟り夫婦で途方に暮れていました。

その頃バレーの先輩の息子さんがアスペルガー症候群で久しぶりに会う機会がありました。以前彼はおどおどした表情だったのが、優しく人当たりがよい雰囲気ガラリと変わっていたのです。

理由を聞くと、中学から彼を全寮制に入れたというのです。先輩から学校見学に誘ってくれました。草津温泉より30分山を登ったところにある“白根開善学校”という全寮制で全日制の普通校でした。

入学には1週間の体験入学が必要でしたが、入学を許可し、受け入れた子供達には、障害・学力に合わせた教育を与えてくれる学校です。主人と話し合い、本人が入学を選んだなら入学させよう決め体験入学をさせました。

体験入学終了日、迎えにいったら学校の玄関に長男がお世話になった10名程の先輩たちが見送りに来てくれていました。その先輩たちには何だかの障害があることは私も分かりましたが、持っている気といったら清く優しさに溢れ素晴らしくって思わず一人一人に握手をし、お礼を伝えました。

この学校は間違いない！と思いました。長男も“僕、入学する”と言ったのです。

両親はいないんだよと伝えても、いいというのです。すると一緒についてきた長女も先生方をとても気に入って、私も体験入学すると言い出し、結局子供2人同時に入学する事になりました。

正直ほっとしました。

疲れていました。

やっと自分は許されたとも思いました。

中学から全寮制に入れるなんてと非難される人もありました。しかし、避難した人が長男の将来に責任は持ってくれません。

言わせておけばいいと思いました。

子供のいない時間ができ、いろいろ考えました。

私は子供を捨てたのではないか？自分を責めました。主人が、もうお前は壊れそうだったからしょうがないよと言ってはくれましたが・・・。

主人と言えば娘を嫁に出したあとの父親のようで、背中に“さみしい”と書いてあるようでした。

子供が在学中、私は仕事に集中することで子供を手放した現実をお金を稼ぐことで正当化しようとしていました。

こんな母親に育てられた子供はなんと不幸なんだという思い。

その引け目より、愛を与えられないなら、代わりにお金を使う事でどうにか取り繕う事をしていました。

こんな私を子供たちはどう思っているのか、大変怖くてしかたがないのでした。

ちょうどその頃友人に気のいいところがあると言われ誘われるまま訪れたところは某宗教団体でした。もともと星空大好き。スピチュアルの世界大好きだった私。初任給で天体望遠鏡を購入したほどです。

私は昔から「大きな存在がこの世界を動かしていて、その存在の教えが地球に枝分かれして伝わり、地域の間人が都合のよいように解釈したものが宗教だ」と思っていました。そのままのことが、その宗教団体の書物に記載してあったので、やっと出会えた！と思えたのです。

この世のシステムと、何故自分は生まれたのか？何をしにきたのか？今の自分のレベル？はどのくらいまでできているのか？そんな事を知りたく2年程かよいつめました。

その間、自宅でモップをかけていると、突然重い西洋風の鎧が音を立てて自分の体から剥がれて落ちていく感覚を味わい人が私の家庭をどう思おうと関係ないと思えるようになりました。

また3日間だけでありましたが、悟りの感覚？を味わいました。自分には、な～んにもないという感覚。どうしてそうなったかが分かりません。

宗教団体に通う中で組織の中を垣間見たとき、結局外も内も同

じで、どろどろの世界なんだと感じて、徐々に足が遠のいていきました。

子供達の学校は5期制で、年5回家に戻ることができます。

初めての休みで帰宅した時長男が、家は天国だ！言っていました。24時間ずっと他人と一緒にというストレスは大人でも相当のものと想像できます。

夕食は何にする？と尋ねたら、「から揚げがいい。“悪いなお母さん”」と言ったのを聞き驚きました。入学させたのは間違いなかったと思いました。慣れない集団での生活で、いかに周りとうまくやっていくかを着実に学んでいると確信したと同時に、その苦労を思い泣けてきました。

休暇が終わり学校へ帰る前日長男が、どうせ何を言っても学校に行かせるんだろう！と言ってきましたが、私はいかなくていいとは言えませんでした。

長女は親の監視下から逃れはじけて楽しそうです。

駅まで見送りに行き、列車に乗るまで長男はブスーっとしていたのに、列車に乗って私の方を見た時はにっこり笑って手を振ってくれました。

私は車に戻ってしばらく泣いて動くことができませんでした。

白根開善学校の年間行事の中に“100キロ強歩“というのがあります。朝四時出発し、学校へ夜12時まで歩いて戻ることを目指す行事です。平坦な道だけでなく、峠もこえる厳しい道のりです。

長女が、途中ワープして70キロは歩き必ず帰ってくるから、それができたらベースギターを買ってほしいと言ってきたのです。体力が全くなく、体育のできない今までの長女を見てきた私にしたら、何言ってるの？絶対無理！と思いました。しかし、午前2時頃学校へ歩いて戻ってきたのです！長女は淡々として微笑んでいました。私は嬉しくって感激で大泣きして出迎えました。次の瞬間“果たしてベースっていくらなの？と出ていくお金の心配をしている私がいきました。長男も70キロ近く歩きました。

二人ともどこにそんな力があつたの？？

いつも学校から帰宅する時は姉弟一緒だったのが、いきなり長男を一人で帰えらせたと長女より連絡がありました。東京から一人らしいのですが、乗り換えも間違えずに無事戻ってきました。どうやって帰ったのか聞いてみると、帰り方は映像で記憶しているようで、記憶の通り列車に乗ったそうです。まさに直感像の力の現れでした。まだ中1の時のお話しです。

また、白根の文化祭で長男が父兄や先生をマッサージするコ

一ナーを友達と作り好評でした。人を癒すという力があると思いました。

子供の可能性の多くを実は親が奪ってきたのではないかと考えさせられました。

長女についてお話ししたいと思います。長女は何事にも執着しない、宵越しの金を持たない、さっぱりとしたB型です。そんな性格だったから良かったのかなあと思います。

私の性格は虚栄心の塊とお伝えした通りです。

子供に対しては、私の子供はこうあってほしいという思いを、長男では果たすことはできないので、長女へ全て向けられたのです。

あなただけは！の母親のエゴで、右へ行きたいといえ、世間体が、都合が悪いから、理屈をつけて左へ行けと従わせ、これをやりたいといえ、今後関わる人間関係が面倒になる事を考えて、先延ばしさせたりと、ガシッとマザーワールドの中でしか好きなことはやらせなかったのです。

今だから、こんな表現でお伝えできますが、その頃は、それが長女にとってベストだと信じていました。中学二年生の後半言葉が荒れ始め、これはマズイと感じ始めた頃、白根開善学校の話が持ち上がりました。

白根の先生方に、あなたはそのままよいと受け入れられ、母親から開放され弾けました。全国に友達ができ活動的になりました。まさに天の助けだったと思います。

長女が社会人になってから私の友人が、弟の事をどう思っているかと長女に聞いたことがありました。すると彼女は、“弟がいなかったら今の私はいない” というのです。友人と長女と私と三人はしばらく涙が止まりませんでした。

両親がいなくなれば、長男は彼女しかいない訳ですが、大変仲の良い二人を見ていれば、流れるままに過ごしていってくれるかなと思えます。

卒業後長男にスピリチュアルな力の事を率直に聞いてみました。

長男は幼稚園時代に初めて神様という存在を感じたというのです。その時の事をとても鮮明に覚えていて聞かせてくれました。

琵琶湖の島にある寺へ参拝に出かけた時の事。長男が本堂にお参りし、後ろを振り向いた時に「よく来たな～」と歓迎されている感覚があり、何か照れ臭かったけど、勇気を出して降り向いて手を合わせ挨拶したとのこと。どんな神様か分からなかったけど二十歳ごろまではずっとその神様に応援してもらっている感覚があったようです。

白根開善学校在学中は姉がいたが、神様を信じ切らないと不安で学校にはいられなかったので、そのお陰で神様とつながることができたというのです。

修学旅行が沖縄で飛行機に乗る事になり、大変不安を感じていると神様がずっと来てくれ、落ち着くまでそばにいてくれたそうです。

長男が二十歳ごろ、私の知人の奨めで、伊勢市の山頂にある龍神様にお参りしました。

参拝した日は曇りがちで参拝を終えて社から出てくると、山全

体に雲が巻いていて龍がぐるぐる飛んでいるようです。空が雲で一杯で薄暗く、風は結構強く渦巻いている感じ。まるで、「天空の城ラピュタ」の龍の巣の中のようなのです。

私でも龍がいる！と思いました。長男は龍神様を感じたようで、その後はその龍神様が護ってくださっているようです。時々龍神様が呼んでいるというので、出かけてはしばらく山頂でベンチにすわり龍神様と繋がり癒され帰ります。

そのころ、以前訪れた琵琶湖の島の寺には白龍様がお見えになる事が分かり、二十歳ごろまで護っていただいたのは白龍様だったことが分かりました。私はその本堂で長男がキーホルダーを購入したことを思い出し、ふいにそのキーホルダーを改めて見たくなりました。長男の机の中に大事にしまってあったキーホルダーのデザインは、龍が水晶を握っているデザインだったのです。鳥肌ものでした。

長男がいうには、答えはいつもあり空から流れてきていて、僕は肩で答えを感じるというのです。白根開善学校在学中は、とても心が傷ついていて、納得がいかない気持ちで満ちていた為、神様からの答えが受け取れなかったといいます。

今は、怒りなどの気持ちを相手からぶつけられた時は「ありがとうございます」と神様に唱えお願いするそうです。お願いする時は、心に何も無い状態でお願ひしないと（心が開いている）答えがもらえないといいます。

神様は常に答えをくださっている為、あとは自分が受け取るか受け取らないかだけらしいのです。

受け取った答えが絶対ではないとも言います。受け取った答えを相手に合わせて、相手が受け取りやすい言葉に変え伝えるよう気を付けるといいます。

長男自身が相手へ発する怒りの場合は、怒りを起こさせる相手が悪いのではなく、怒りを発する自分の問題である為、同じように「ありがとうございます」と唱え、神様にお願いし答えをもらうようです。

答えをもらえた感覚は、きた！というものではなく、“知らないうちに持っていた”ことを気づく感覚らしいです。

現在は人の体をさわると、気の流れが悪いところがわかるようで悪いものをすって頭から出すそうです。気の流れが悪いところが自分は分かると自覚した時も“既にもっていた！”と、ある日気づいただけのようなようでした。

長男が今後の人生を生き抜く為には、私たち両親は療養手帳が必要と考えました。長男に相談することなく親が一方的に決定し、中3の時療養手帳を手に入れました。C級でギリギリ発行してもらえました。

本人に手帳を渡す事は親にとって大変つらい瞬間ですが、夫が一人で渡したようで、私が仕事から帰宅すると、母さん、ひどいよ！と言ってきました。私は、今後あなたが生きてく為には必要になるものである事と、両親は変わらずあなたを愛している事を伝えました。うんうんとうなずきながら聞いてくれていました。その日以降は手帳について何も彼からいってくることはありませんでした。

長男がどう納得したのかしなかったのか私には分かりません。今に至るまでJRきっぷを購入する時には、療養手帳を提示し割引を受けたりできる事など、手帳を使う意味を伝えています。

療養手帳C級の場合、国からの援助は全くなく、年金は親の収入で支払う金額は変わりますが、本人もしくは親が支払う必要があります。

白根開善学校には全国から生徒がやってくる為、各縣市町村での福祉政策の情報が入ってきます。受けられる援助に差があることも経験しました。

長男が卒業を迎えた年は、サブプライム問題で超！就職難の時代でした。ハローワークへ行っても紹介できる仕事は無いと言われてきました。不況の時は長男のような立場の人が最初に首をきられるとも聞きました。

現在在住の市内には就業支援する施設は選べるほどありますが、その頃住んでいた地域では、支援センターというものが有るといふ情報すらもらえませんでした。

偶然現住所へ引っ越し知ることができ、即就業支援センターに通い数社面接に挑戦しましたが、なかなかうまくいきませんでした。某市役所の知的障害者向けの求人に応募してみると、面接人数は応募数1人に対し、70名程でびっくりしました。

白根開善学校時代、父兄の諸先輩に“学校在学中は大人の目があり、どうにかなっていくものだが、就職は本当に難しい”と聞いてはいましたが、その通りでした。

平成27年8月やっと私立保育所の清掃のパートを始めることができました。高校を卒業し5年が経っていました。

園長先生や主任さんが、大変親切で声もよくかけてくれるそうで居心地がよく、昼食に野菜中心の薄味の給食も大変気に入っています。

ただ、保育士さんが毎日園児達に大きな声で叱るそうで、その声を聞くと昔叱られた時の事が思い出され、それがトラウマで怖くなってしまおうそうですが（ごめんなさい！）、保育士さんが何故怒るのかよくわかるので、昔の怖い思いを換えることで、トラウマが気にならなくなっているとの事です。保育所に通う意味がここにありました。

長男が就職してから半年が経つころ、子宮内膜増殖症により子宮摘出手術を受けました。すると摘出した子宮に癌が見つかったのです。

死を身近に感じたことで、いつ死ぬか人間分からないのだから、やり残したことはやっておこうと思うようになりました。

せっかく子供達が私を選んで生まれてきてくれたのに、自分は良い方向へ変わることができたのだろうか？虚栄心の塊の自分はどうかになった？

確かに1番でなくてもよくはなったし、ミスを素直に認めることはできるようにもなり、意見を否定されても愛されないという事ではないと分かってきました。

しかし、心の奥底で、自分を許していない事は分かっていたし、ダークな部分を無くしもしたかった。

その為に、私は思い切って前から気になっていた講座を受けることにしました。人生のビジョンを見つけ、何のために生まれてきたかを発見する為です。何か分からないが答えが得られると自信があったのです。そこでは今までに得た情報のパーツがどんどんはまっていく感覚がしてワクワクしました。

やはり、この講座は間違いなかった！今迄頑張って生きてきた

ご褒美のように思えました。

その学びの中から、私自身の経験を交え、生きていくのが楽になった考え方をお伝えしようと思います。

どうしてよいか分からない、苦しくてどうしようもない時、当時の私は誰かが悪いのだと思いたかったし、周りを責め、なにより自分自身を責めました。

しかし、誰も悪くなかったのです。

何故そう思えたのかお伝えします。

1. 人生のイベントと感情

人は生まれてくる時、人生のイベントを自ら決め、イベントで経験する感情を味わう為に来ているというのです。性格やエゴも自分が選んだようなのです。

私の子育て中は、とにかく子供を少しでも良くする事に集中し、何故障害児なのかという現実には蓋をして受け入れずに逃げていた事はお伝えした通りです。

では何故そうしたのか？

普通の子供であればよかった。うとましい。面倒。わずらわしい。愛せないという思いたくもない感情が、自分の中にふつふ

つと湧いてきている事が許せないし、認めたくなからだったと思うのです。

しかし、自分が決めてきたイベントや性格だったとすれば、その感情は湧いてきて当然だと思えたのです。

なぜなら、“その感情を味わいにきている”のだから。

その事を学んだ時、ようやく自分を責めることをやめることが出来たのです。

自分を責めないとは、自分を許し受け入れる事。自分を愛することにつながっていきました。

とは言っても感情は出続けます。エゴは一生無くならないからです。

これは気分の良いものではありませんので、私に取り組んでいる、出てくる感情と付き合う方法をお伝えします。

2. 出てくる感情をリリースする。

どんどん出てくる認めたくない感情を、出てきて当たり前！と、まずは出てくることを認めてあげました。そして感情を否定し、自分を責める事はやめました。

そして、発した感情にとらわれないようにする為に、感情に

対し“ああそうなんだ～。そう思うんだ～”と、もう一人の自分が見ている感覚、第三者的にとらえ、感情を握らず、そのまま見送る、リリースすることを教わったのです。

“味わっている自分を見ているだけでいいんです”

どんどん切り替えていきます。

最初は私もそんなことで感情がすぐ消えるのか？と疑っていましたが。けれど私にはこのやり方がとても効果的でした。本当にすーっと、楽になるのです。

だけど、また感情はあらわれてきます。だけどその度に、できたらリリースを繰り返すことで、本当に楽になっていきます。

大丈夫です。できますよ！

3. 子供はお見通し

人は生まれてくる時、人生のイベントを自ら決めて生まれるとお伝えしました。

つまり生まれてくる子供はこの一生を、感情を味わうために、自分で人生のシナリオを決めているのです。ただ、選んだシナリオのなかで、そのために必要な性格や能力が、この世の社会では、障害者であり、自閉症という名札も付けることになってしまっ

たようなのです。

そして、子供たちは親も選んできました。あなたを選んだのです。両親の持っているもの全てを分かってあなたを選んできているのです。

すなわち、子供は全てお見通しなのです。

長男は潔癖症なのか、どんどん水を使い身体や手を洗います。浴室や洗面所からず〜っと続く水の音が主人は気になってしかたがありません。少しお酒が入るとよく長男に長い時間説教をします。説教が数日続いた後に長男が一言。

「お父さんは、自分の不安を、僕にぶつけているだけだね。」

長男は父親に付き合っていたんですね。

もし、あなたが、

“自分は母親らしい事が出来ていない”

と苦しんでいるのなら、子供はその事を知っているのです。

一緒に味わっています。

それが今あなたは出来る精一杯なのだと知っているのです。

あなたは頑張っています。

頑張っている事を知っているからこそ、子供はお母さんが大好きで、離れていかないのです。

愛されているのです。

4. 人生のやりのこしをつくらない

子宮を摘出した私は、死を身近に感じたことで、長男が自分に生れてきた意味についてより深く考えるようになりました。

そして今ようやくそれに気がつき始めています。

『私のやりのこしは、本当の意味で息子と一緒にいること』

いままでの私は「大きな目的のために人は生きている」という事に、とらわれていました。生まれて来た意味を見つけ、それをやり遂げるからこそ意味があると。

ですが、いま気づいたことは「感情をあじわう」という何気ない日常のなかに、目的があるということです。

今まで生きてきた一瞬一瞬が宝物になっていることに気が付いたのです。

できなかつた事、深い後悔や自分を責める思い。子育て真っ最

中はなかなか気づけなかった事が、今は宝物になっています。

特別な事は必要ありませんでした。

5. 子供の可能性を信頼する。

手がかかる子を目の前にしたときに、私は長男への信頼を持つことを忘れかけていました。ですが、ひとりで帰ってきたとき、また人を癒す場面をみたとき、私は彼の可能性を奪っていたことに気がついたのです。

そして私にはわからないけれど、神様とはなし、体をいやす方法までも長男は知っていると気づくことが出来た事を通じて、私はこの子の可能性を見いだすことがようやくできるようになりました。

子供がお世話になった白根開善学校には『人はみな善くなるうとしている』という素晴らしい教育理念があります。人は常に少しでもよい方向へ向かって歩んでいると信じています。

大きな結果や子供の自立を急ぐことなく、子供なりのスピードを見守りながら、一緒にイベントを経験し、感情を味わいながら生きていく事をしてみませんか？

大きな成果を追いかける事で、子供や自分自身にプレッシャーをかけることから解放しませんか？

そうすることで見えてくるものがあると思うのです。

障害児の親は自分が死んでゆく時、安心して死んでいきたいと誰もが思います。

もしかすると、親の手を離れた時から苦勞が待っているかもしれません。でも、その苦勞ですら子供が選んだ人生のイベントなのだと思うのです。

であるなら、私は長男が、この世では生き辛い”自閉症“という名札をつけることになった性格を選んだ事に敬意を表し、できるだけ長く長男のイベントに立ち会いたいと思います。イベントを堪能している長男を見守りたいと思います。

私自身まだ道半ばです。

自分を責め続けることから解放し、

自分を心から愛する事が出来た時、

自分が存在するだけで周りが癒される事を既に自分は知っているのです。

ただ変化が怖いだけなのです。

私と一緒に大切な人達の為に自分を愛する事を始めませんか？